

きまりを守ること きまりをつくること

先日の図書館訪問では、感染対策のため、前回と同様に館内に入る人数を半分にしました。その間、もう半数の子どもたちは、図書館前で待つことになります。前回、待っている間も何か楽しいことはできないかと考え、図書館前にある円形の台の場所で、絵本袋を椅子として置いて「椅子取りゲーム」をしました。これが楽しかったようで、今回も到着するとすぐに「椅子取りゲームができるね。」と喜んで始めました。

しばらくして、早く座りたいからと、台の上に登って逆の場所に移動する子がいました。すると、子どもたちから「今は、ずるいよ」と意見がでました。「では、どういうルールにしますか？」と促すと、「登らない方がいい。」「ずるいし、危ないから。」とのことでした。登った本人も納得して、また遊びが始まりました。今度は子どもたちの考えたルールがはっきりしたので、最後までルールを守って遊べました。

さて、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の一つに「道徳性・規範意識の芽生え」があります。ここには、「友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。」と明示されています。

しかし、きまりを守るように何度伝えても、なかなか身に付かないと感じることもあります。子どもたちは、友達との楽しい遊びを続けていくために「きまりを守る」ことが必要であると、頭では理解していても、ずるいことを繰り返してしまうことがあります。「本当は、してはいけないことだけれど、ちょっとならいいかな。」「〇ちゃんもやっているし、自分だけではないからいいかな。」など、自分に都合のよい言い訳を考えて行動することもあります。幼児期の終わりまでに育ててほしい姿は、到達するべき、あるいは到達させるべき目標ではなく、「育ててほしい」という保育者側の願いが書かれているものですが、「道徳性・規範意識の芽生え」は、なかなか簡単には身に付かないことが多いと感じています。

私の息子が幼い頃、悪いことをしたときに、「あれは、僕がしたのではなくて、もう一人の僕がやった。」と言ったことがありました。私は、何を言いかと驚きながらも冷静を装い、「では、もう一人の僕に伝えてほしい。ママは、自分のしたことを素直に謝れずにいることが悲しい。これはきっと、ママの育て方が悪かったのだと思う。」と話しているうちに、涙が止まらなくなってしまいました。すると、息子は「ママは悪くない。悪いのは僕だ。ごめんなさい。」と言い、息子も泣きました。今思うと、息子は、もう一人の自分の行動を止められなかったような言い方をしながらも、少しは悪かったと思っていたのかもしれない。

実は、きまりを守らないときは、「道徳性や規範意識の芽生え」を育てるチャンスとも言えます。子どもたちは、小さな不道徳を繰り返す中で、自分の中にある良心とせめぎ合いながらその行為の意味や、してよいことかどうかについて振り返って考え、実感として理解すると自分の行動を見直すようになっていきます。ここで大切なのは、いかに子ども自身が、自分のしたことをもう一度思い浮かべながら、「しないほうがよかった。」と思えるかどうかだと考えます。そのためには、子どもたちが、自分のしたことを振り返る機会を大切にして、してよいことや悪いことが分かるように、繰り返し根気よく支えていくことが必要です。また、周りにいる友達の意見に耳を傾けられるような状況をつくり、「自分ルール」では通らないことがあることや、周りからどのように思われているかに気付くようなきっかけをつくることも大切です。頭ごなしに伝えがちになりますが、子どもに「次に同じ場面が来たらどうしようと思いますか?」と問いかけたり、「どういう人になりたいですか?」と自分で考えさせたりすると、心に響くように思います。

公共の場でのきまり、家のきまり、園のきまりなど、守るべきことについては、しっかりと伝えられているかどうかを改めて見直すことが必要です。一貫性をもって、子どもたちに分かるように、タイミングを捉えて伝えていきたいものです。子どもたちが、目の前で起きていることや相手の気持ちなどに心を向けられるように、状況が思い浮かべられるような言葉を伝えると、理解につながりやすくなります。そして、子ども自身でこうした方がよいと考える機会もつくりながら、「きまりをつくって守ると心地よい。」と感じられるように願っています。日頃から子どもたちが、きまりを守っている小さなことも、「守れているね。」と声を掛けると、自分を誇らしく思って、次もまた守りたいと思う気持ちにつながることでしょう。お子さんのよいところをたくさん見付けられますように。

幼稚園アンケート評価のご提出をありがとうございました

全体を通して多くの項目で達成率80%以上の肯定的な評価をいただきました。自由記述欄にも、多くのご感想やご意見を記入していただき、心より感謝申し上げます。

C・Dの評価や、ご意見については、職員で見直しを図り、今後すぐに改善できるように全力で取り組んでまいります。

◎ご意見に関する回答

・園行事や PTA 活動について、「平日に行われる行事も多いので、働いている・もしくは働くことを視野に入れているお母さんにとっては、少し負担が大きいと感じる。」

(訂正) 評価結果⑤「幼稚園の行事」の6つめと、⑥「保護者の活動・子育て支援」の5つめ)

→これまで、保護者の方々に子どもたちの園生活についての理解を深めていただけるように、保育参観や保育参加の行事を計画してきました。しかし、平日に実施することも多く、ご苦労されたことがあったかと存じます。保護者の皆様のご協力があったこそ、子どもたちにとって、とても豊かな園生活となりました。子どもたちのために、時間のやりくりをしながらご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

行事に参加できない際には、臨機応変に対応してまいります。子ども会の劇は、幼稚園でも当日の様子をビデオ撮影しました。視聴希望者は、お申し出ください。今後、何かお気付きのことがある際は、お知らせいただければ幸いです。